福井県高Ｐ連会報

発行人　福井県高等学校ＰＴＡ連合会
（福井県生活学習館）「ユー・アイふくい」内）　加　藤　貞　信

小倉百人一首部門
福井県合同チーム
団体の部　全国第３位

第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会にて　（写真提供：高文連　小倉百人一首かるた部会）

高Ｐ連研究大会・キャリアガイダンス研修会

十一月七日（土）にザ・グランユアーズフクイで平成二十七年度高Ｐ連研究大会・キャリアガイダンス研修会が開催され、百四十六名の会員が参加しました。

開会行事では加藤貞信福井県高Ｐ連会長がいじめやネット犯罪への取組みもさることながら、選挙権年齢引き下げに伴う高校生の選挙権の対応や教育も必要になってくるため、ＰＴＡとしてもそのサポートが大切になってくるだろうと挨拶されました。続いて来賓の福井県教育庁高校教育課長田中幸治氏が高校教育の当面する課題とその具体的な対応について説明され、その後、福井県高等学校長協会長の片野正人氏に祝辞を賜りました。

研修会ではゲンキー株式会社代表取締役社長の藤永賢一氏に「子供の人生」と題して講演をしていただきました。「一生一回一ブランド、最初についた仕事で一番をとることが大切。」というフレーズが印象的でした。参加した会員は普段の子ども達との接し方を客観的に顧みながら、多くの示唆を受けたのではないかと思います。子どものためとしてきた行動が実は転ばぬ先の杖となり、自立の妨げになっていたのではないかと反省する会員も見受けられました。各学校に持ち帰り今後の更なるＰＴＡ活動充実の一助となることを切望します。

藤永賢一氏のご講演の中から特にきらりと光ったフレーズを抜粋いたします。

①教育の目的とは？

・教育の目的は何か問われれば「自立」であると明言します。今後ますます生産は海外で行われ、国内では知的労働が鍵となります。世界の中で戦い抜くためにも自立はキーワードの一つです。

②福井の一番説

・福井では一時間以内の通勤圏であることが絶大な効果があります。
・少子化は核家族からくるわがままではないでしょうか。三世代で一つの家族であることは有意義です。家族内でも権利を主張するのではなく義務を果たさなければなりません。
・福井が今後力を入れるべきポイントは交通や観光よりも法人や大学を誘致する方が効果的です。雇用や優秀な教育があるところにはすばらしい人材が自然と集まってくるものです。

③私の人生について

・中学野球部は補欠でしたが、今となればその時の努力と苦しさがばねになっていると確信しています。悔しさの中にこそ成長するための種がかくされているように思います。
・アルバイトの面接では不合格も体験しました。簡単な作業内容なのに不採用となったのは今でもおもしろくありません。（笑）二十五歳で独立するも常に数字とお金との戦いの連続で楽を体験した記憶はありません。常に緊張と不安の連続だった気がします。
・勝率は五割です。仮に連戦連敗でも戦い続けることに意義があると信じて挑戦し続けてきました。
・おじさんの葬式で、「時間」と「自分」が最大の敵であり、計画的な人生を送ることの大切さに気づきました。それ以後は時間を有意義に使うための努力をしています。
・しつけとあいさつが肝心です。社内でも私自らが若い社員に遠慮なく注意します。食事では、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」は当然ですし、食べる姿勢まで細かくチェックすることもあります。
・振り返るとあまのじゃくかつ非常識人生のような気がします。すべての常識を疑うことは大事です。

④常識は同質化につながります。同質化は時に死を意味します。非常識こそが差別化になると信じています。

例えば…
「ちゃんと食べないと風邪が治らないよ。」「三食食べないといけない。」「お肉を食べないとスタミナがつかない。」「寝不足だから早く寝よう。」「毛穴が詰まると毛が抜けやすい。」
など世間で一般に言われている常識は間違っていると思っています。すべての常識を疑えというのが私の考えです。

⑤親と子どもの幸せは同じか？

・親と子どもには三十年の歳の差があることに気づいていますか。遅れていることを自覚しよう。
・親の安心はつつがない事ですか？しかし子どもの人生はそれでいいの？「子どものため」と「子どもの立場」とは大きく違う！人類はチャレンジする唯一の動物です。ときに子ども達の「自立」を邪魔していませんか？
・SPORT！「チーム&競争」が大切です。これは社会に出るまでの基礎固めとして必要です。
・なるようになります。焦ったり悩んだりしたところで現実はそう変わりません。ときに楽観主義者も大事です。
・国際競争社会の中で、子ども達が親と学校と国の過保護の犠牲になっていませんか？
例えば…
天候で休校？熱中症に過敏になっていませんか？インフルエンザ？弱酸性、除菌？神経質になりすぎでは？本来子ども達は泥臭さの中からこそ学ぶことが多いはずです。
・高校生で天職なんて見つからないのが当たり前です。皆さんもそうでしたでしょ。やってみて続けてみて初めて天職に成り得たのではなかったですか。青い鳥症候群にならなければいいと思います。その道のプロ&スペシャリストを目指しましょう。絶対継続の法則。このことに尽きます。足元に花を咲かせる努力を惜しんではいけません。一心不乱に仕事に向かえば、きっと見えてくるものがあります。煩悩は失敗人生になります。見栄をはるな。ランチェスター弱者の戦略。これ一本で何かで一位を目指せ。
・試練と困難の違いは受け取り方次第で決まります。すべて試練です。困難と思ってはだめです。人生は解釈で決まります。
・価値観のある家風と健康方針は引き継がれます。
マーガレット・サッチャーの言葉より「人に好かれたいなら妥協が必要だ。しかしそこからは何も生まれない。」
ウォーレンバフェットの言葉より「マイスコアカード　他人からどう見られるかということに左右される人生ほど悲しいものはない。他人がどう思おうが、噂されようが全く関係ない。」

（丸岡高校PTA会長　竹内三知夫）

全国高Ｐ連大会岩手大会
『未来圏からの風をつかめ！
～新時代を担う君たちと共に～』

八月二十日（木）、二十一日（金）の二日間、岩手産業文化センターを主会場に全国高Ｐ連大会岩手大会が、全国各地から約九千五百名、本県からも百三十九名が参加して盛大に開催されました。

岩手県出身の宮沢賢治は、『生徒諸君に寄せる』という詩の中で「未来圏から吹いてくる透明な清潔な風」という表現で子どもたちに進むべき未来への想像をかきたてています。今大会のテーマは「急激に変わりゆく環境の中、今こそ未来からの風を感じ、輝かしい未来を想像し、行動してほしい。」との思いを込めて定められたそうです。

大会中各所で行われた地元高校生たちによる吹奏楽や郷土芸能などのアトラクションは、若さあふれる演奏・演舞で会場から大きな拍手喝采を浴びていました。

開会式では佐野全国高Ｐ連会長や実行委員長の挨拶、来賓祝辞に続いて、ＰＴＡ活動に功績のあった個人、団体に文科大臣、全国高Ｐ連会長より表彰状が授与されました。そして昨年の福井大会成功の功績に対し、我が福井県高Ｐ連と北風実行委員長に特別感謝状が贈られました。

文部科学大臣表彰
藤島高等学校ＰＴＡ

全国高Ｐ連会長表彰
個　人
北風俊哉　福井大会実行委員長
末永公秀　前県高Ｐ連副会長
団　体
三国高等学校ＰＴＡ
美方高等学校ＰＴＡ

役員等表彰
平澤良典　前県高Ｐ連会長

開会式後、盛岡出身で芝浦工業大学学長村上雅人氏が「夢高くして足地にあり　The Sky is the limit」と題して基調講演を行いました。専門の超伝導をはじめ、各国の名言や漢詩などを例に「多くの言語を理解できれば、それだけ世界中のすばらしい言葉に出会える」「人間は宇宙の中ではちっぽけな存在でも、その可能性は宇宙に続く空のように無限大。だから夢を持ちなさい。」と語られました。

午後から七つの分科会に分かれ、実践発表や講演、パネルディスカッション等が開催されました。第三分科会「生徒指導とＰＴＡ」では、本県の伊東義之丹南高校会長が「生徒理解と生徒指導～ＰＴＡ活動を通しての子ども理解～」と題して事例発表をされました。

また全国高Ｐ連研究発表「青少年の健全育成に関わる研究発表」は、講演とシンポジウムの二部構成で開催され、講演では京都大学大学院准教授の木原雅子氏が、昨年度の全国高校生生活・意識調査結果の報告と問題提起をされました。ＳＮＳを中心としたバーチャルな人間関係においては、スマホ依存、モノを覚えなくて済むことによる「デジタル認知症」といった新たな危険があること、リアルな人間関係においては精神的な理由から普段マスクを着用した子どもが増えているといった問題や、先生との関わりに対する満足度と学力の関係など、はじめて聞くことも多く、興味深い講演でした。

続いてのシンポジウムでも、先の調査結果をもとに、学校での具体的なスマホのルールや規制の必要性などが話し合われ、会場からも多くの質問や意見が出て活気ある分科会となりました。

二日目は、映画監督・大友啓史氏による「アドリブを生きる力」と題した記念講演で始まりました。映画では、様々なハプニングが時に大きな魅力を与えてくれる。だからアクシデントすら楽しみで、作品の中に活かしていくアドリブ力をどう蓄えていくか等、現場のエピソードを交え話されました。

引き続いて閉会式で、大会宣言の採択と次期開催県の千葉県高Ｐ連会長の挨拶が行われ、二日間の全国大会が幕を閉じました。

今回訪れた岩手県は、東日本大震災の被災地で、開会式でも地元の来賓方が、復興半ばの今を是非見ていって欲しいと話されていました。震災の日から時が止まっているような一面を目の当たりにし、驚くと共に認識を新たにしました。

子どもたちの未来を考え、被災地の今とも向き合えた岩手大会は、本当に有意義なものでした。

（大野高校ＰＴＡ会長　松本茂樹）

北信越地区高Ｐ連研究大会石川大会
『未来圏からの風をつかめ！』
～多様化する新時代を生きるために～

七月九日（木）・十日（金）の二日間、北陸新幹線開業で賑わう金沢の石川県立音楽堂を主会場に北信越地区各県から千二百五十名が集い、本県からも百七十九名が参加して北信越地区高Ｐ連研究大会石川大会が開催されました。

開会式で、実行委員長の勝崎悟北信越地区高Ｐ連会長が「雇用の流動化やインターネットの普及など昔と比べ子どもたちを取り巻く環境は劇的に変化している。特に高校生の携帯電話・スマートフォンの所持率が増加し、手軽に情報を発信・共有できる利便性がある一方、使い方を誤れば危険性をはらむツールになることが懸念されている。正しい使い方の指導等、私たち一人ひとりが子どもの道標となり、子どもたちのよりよい教育環境を支えていかなければならない」と挨拶され、続いて全国高Ｐ連の金井修副会長が「公職選挙法が改正され、十八歳以上に選挙権が与えられた。このことは、私たち大人が子どもたちに現状認識や問題意識などをちゃんと示せるか、議論が交わせるかを問われることになり、よりよい親子関係を築く素晴らしいきっかけを与えてくれたと思う。未来圏から吹いてくる風を感じつつ研究協議を深めて欲しい」と話された。

その後、ＰＴＡ活動に功績のあった三十四名に表彰状と記念品が贈られ、本県からも四名の方が表彰されました。

本県の栄えある受賞者

藤本潤一　羽水高校育成会会長
山本和也　武生商業高校ＰＴＡ会長
牧岡輝雄　若狭東高校ＰＴＡ会長
吉岡正修　藤島高校ＰＴＡ会長
（敬称略・役職は二十六年度）

開会式後に行われた歓迎アトラクションでは、創部六十三年目を迎える石川県立小松工業高等学校吹奏楽部によるマーチングが披露されました。地域行事や社会福祉施設・学校等への訪問演奏を数多く実施しており、全国総合文化祭にはマーチングバンド部門・パレード部門の２部門で石川県代表として出場するというだけあって、きびきびとした素早い動きと迫力のある演奏は、完成度が高く素晴らしいステージで参加者を魅了しました。

その後、四つの分科会に分かれ、研究発表・研究協議が行われました。

＊福井県の分科会発表

第一分科会『高校教育とＰＴＡ』
岸　康弘　勝山高校ＰＴＡ会長
「地域との連携による教育を目指して」
地域社会への理解を深め、将来の進路選択に寄与することを願い「地元企業見学会」「先輩社会人からの進路ガイダンス」を実施している。

第二分科会『進路指導とＰＴＡ』
内上　和博　藤島高校ＰＴＡ会長
「進学校の憂鬱」
近年の大学進学は、保護者の全面的な支援が必要な総力戦の様相を呈している。ＰＴＡとしても大学進学をバックアップするため諸事業を実施している。

第三分科会『生徒指導とＰＴＡ』
伊東　義之　丹南高校ＰＴＡ会長
「生徒理解と生徒指導
～ＰＴＡ活動を通しての子ども理解～」
保護者の学校行事への積極的な参加が生徒指導につながると考え、「学校生活に関心を持つきっかけとなるＰＴＡ活動を紹介。

第四分科会『家庭教育とＰＴＡ』
桃井　泰人　敦賀高校ＰＴＡ会長
「親子のコミュニケーションを
深めるために」
保護者が学校・地域との連携を密にし、様々な活動に参加して情報や体験を得ることで、家庭における親子のコミュニケーションが深まり、家庭教育力を高めることにつながっている。

二日目は、『激動する世界情勢と日本のゆくえ』と題し、石川県出身の国際ジャーナリスト・キャスターで明治大学国際日本学部教授の蟹瀬誠一氏の記念講演で幕を開けました。氏は、日本の高齢化問題を踏まえた上で、世界の情勢を見ながら日本経済を見ないといけないこと、未来の子供を育てるのだから教育は最先端をいかなければならないこと、また、十八歳選挙権やスマホ利用についても私見を述べられた。また「教育は３Ｒ（読み・書き・そろばん）から３Ｘ（探求・表現・共有）に転換していかなければならない。子供は、押し付けの勉強より、自ら探求し、その情報を共有するために人に伝える（表現する）方が、学習意欲が伸びるのです」と強調された。国際経済や日本の諸問題について穏やかな語り口で話され、示唆に富んだ中身の濃い内容でとても好評でした。

続いての閉会式で、大会宣言文が採択され、次年度開催県である福井県の加藤貞信高Ｐ連会長から挨拶があり、二日間の大会は幕を閉じました。

さて、来年度は福井大会です。それぞれの学校が連携して、力をあわせて石川大会に負けない立派な大会にしたいと思います。会員の皆様方のご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。福井大会を見事成功させましょう。

（足羽高校ＰＴＡ会長　和田良教）

嶺北・嶺南地区 ＰＴＡ指導者研修会開催

ＰＴＡ指導者地区別研修会が、九月十二日（土）に嶺南地区で、九月十九日（土）に嶺北地区で開催されました。

嶺南地区では、初めにカウンセリングドームカシオペイア主宰の鈴木るみ子氏が「思春期への関わり方～自発的な心の力を育てるために～」と題して講演されました。氏は『自発的な心』を育てるのではなく『自発的な心の力』を育てるのだと強調されました。「人は誰もが多方面からの外的圧力や横風に対して必死でバランスを取ろうとして生きている。キャパシティーの大きな大人に比べ、経験の少ない子どもは、許容できる範囲が狭く『そんなこともできないの？』と大人が思うことでも、子どもたちなりに必死にバランスを取ろうと努力している。それなのに大人から否定される言葉を発せられると、反抗的な態度や攻撃的な姿勢になってしまう。しかしそのシグナル（ＳＯＳ）を発信していることは重要で、それが大きければ大きいほど成長もまた大きくなる。また、子どもたちの心のコップは小さく、澄んだ水が入っていても、傷つく言葉という汚れた水が少し入るだけですぐに真っ黒になる。一度真っ黒になると、きれいな水（きれいな言葉）をたくさん入れないと元の澄んだ水に戻らない。大人は、子どもの思いをよく聞いてあげて、コップの中をきれいにしてあげることが大切。

しかし大人は、子どもが人を傷つける言葉を発したり、人として許せない行動をとったりした時は、絶対許してはいけない。ここだけは譲れないという一線を引き、毅然とした態度で指導することが重要」と話されました。

講演に引き続き、敦賀気比高校父母と教師の会の木船恵美子副会長が『保護者同士と学校の距離を縮め「温かな関係性」を築くために』と題して実践発表を行いました。

全校生徒は六百八十名余りで、市外、県外の中学校出身者も多く、保護者の一体感を醸成するための私学ならではの苦労や、楽しみ方などを聞き、多様性の中で子育てするのも子どもたちにとって必要なことだと感じました。学校祭の保護者ブースの提供食品の種類と予算の多さには舌を巻きました。また、懇親を深めるためのバス旅行など各種行事の多様性に、遠方の保護者とのコミュニケーションを大切にする父母と教師の会の苦労が偲ばれました。

一方の嶺北地区は、「子育て八合目・高校生の心理と親子関係を考える」と題して仁愛大学人間学部心理学科准教授の吉水ちひろ氏が講演されました。

「思春期・青年期の発達論から思春期心性と大人になるということ」「現在の子育ち・子育ての難しさ」「高校時代の親子関係に大切なこと・親のあり方とコミュニケーション」という三つのテーマで分かりやすく話されました。青少年の現状、思春期における心性の移り変わり、またストレス等を理解し、青年に成長するまでの親としての接し方、距離感のアドバイスがありました。子どもの話を聞いて理解すること、子どもに言葉で伝えること、そして言葉以外で伝わることを感じ取ることが親子のコミュニケーションで重要と話され、最後に、子育てを山登りにたとえて、子どもと一緒に登っていく途中には様々な風景が見えるが、頂上の景色を想像し、子どもの成長を見守り育むため、時間を共有しながら一緒になって登っていってほしいと結ばれました。

講演後、足羽高校ＰＴＡの和田良教会長が「おにぎり作りが親子を結ぶ～足羽高校ＰＴＡの取り組みについて～」のテーマで実践発表を行いました。

同校ＰＴＡは、「ワンコイントークの会」「学校祭でのおにぎり作り」「朝のふれあい指導」「Ｓ＆Ｐフリートーク」「三年就職希望者対象模擬面接」「一・二年生保護者対象進路ガイダンス」「広報誌Ａｓｕｗａの編集」等の事業を行っています。テーマのおにぎり作りは、子供達やＰＴＡ同士のふれあいの場となっているようです。通学圏が広く、親同士や学校と保護者との結びつきが薄くなりがちな学校だからこそ、ＰＴＡ活動を通して親同士の触れ合いを仕掛け、家庭と学校の距離を縮めたいと考えているとの発表でした。

次に、武生商業高校ＰＴＡの木内雅昭会長が「商業教育とＰＴＡ活動」と題し発表されました。

特色あるＰＴＡ活動として、生徒が商業に関わる出店を通して学びの場を作っている同校の一大イベント「武商デパート」への協力があります。ＰＴＡも応援し盛り上げたいとの思いから、縁日広場を出店し、子ども連れのお客様を中心におもてなしをしています。

他にも教員を交えず生徒と学校について話し合う「保護者と語る会」も実施しています。また、研修旅行やスポーツ大会を企画し、会員相互の親睦を図るとともに、先生方との繋がりも大切にしているとことでした。

子どもたちのために、学校と保護者が協力し合い一丸となってより良い環境を作っていこうと努力されている各校の発表はとても参考になりました。

（若狭高校ＰＴＡ会長　桂田定樹
春江工業高校ＰＴＡ会長　白崎芳彦）

ちょっと おじゃましま～す！

この企画は、調査広報委員が直接「ちょっとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

Introduction

足羽高校

九月十九日の夕刻、緑豊かな丘陵「あさむつの里」にある足羽高校を訪ねました。同校は福井市の南部に位置し、校舎からはのどかな田園風景が望め、スクールカラーもグリーンだそうです。応接室で、和田ＰＴＡ会長、小川副会長、そして図書渉外部長の阪本先生からお話を伺いました。

同校は、創立四十周年を迎える普通科と国際科（中国語コース・英語コース）の併設校です。生徒一人ひとりを大切にし、一年次に中学校の学び直しをする「足羽ベーシック」や三年生の進路別学習である「ドリカムタイム」など特徴のあるカリキュラムも導入しています。「世界に近い学校」とのキャッチフレーズどおり、毎年国際交流の機会があり、国際科だけではなく普通科の生徒にとっても貴重な学びの場となっています。現在、全校生徒五百余名が学んでおり、生徒は純朴で、「進取・積極・創造」を校訓として掲げ、自由で明るい校風の中、勉学・部活動・国際交流活動にと学校生活を謳歌しています。進路状況は約八割が進学、約二割が就職となっています。

同校の保護者の方々は、ＰＴＡ活動に協力的で、多彩な活動を展開しています。特に昨年は全国高Ｐ連大会福井大会で第一分科会を担当して、結束力がより強まり、大会終了後には、卒業後もＰＴＡ活動をサポートする「足羽高校おたすけ隊」というＯＢ会が発足したとのことでした。ＰＴＡ活動には四つの専門委員会があります。総務委員会では「ワンコイントークの会」、学校祭「おにぎり作り」、健全育成委員会では「朝のふれあい指導」「Ｓ＆Ｐフリートーク（生徒と保護者の語る会）」、進路対策委員会では「三年生就職希望者対象模擬面接」、「一・二年生保護者対象進路ガイダンス」、調査広報委員会では広報紙「ＡＳｕｗａ」の発行といった行事を企画運営しています。中でも特に、学校祭での「おにぎり作り」は平成十六年から始めて十年間継続しているとのことです。「おにぎり作り」の定着のお陰で一般の会員の中からも参加が増え、親子を結ぶ活動として、また保護者同士のふれあいの場として大変有意義な活動となっています。

最後に、「通学圏が広く、親同士や学校と保護者の結びつきが薄くなりがちな学校だからこそ、親同士のふれあいを仕掛けたい。教職員と保護者の距離を縮めたい。自分の子以外の子たちとも関わりたい。」という和田会長の熱い思いを聞いて、私も勇気をもらいました。同校のＰＴＡ活動が明るく楽しく元気よくという雰囲気の中でますます隆盛の機運を感じた取材でした。

（取材　道守高校育友会会長　長田康弘）

Introduction

武生東高校

菊花薫る十月二十三日武生東高校を訪問し、水戸守校長・ＰＴＡ担当の尾鳥先生・ＰＴＡの前田顧問・小形会長の四名に出迎えていただきました。

まず、水戸守校長先生から、同校は普通科と国際科を有しており、アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドに姉妹友好校もあり、国際理解教育や英語教育に特徴のある学校とのお話を伺いました。スクールモットーもHealthy, Intelligent and Noble like Mt.HINO（HINOISM）と英語表記で、学校行事の度に読み上げるため生徒・保護者にも浸透しているそうです。また、尾鳥先生は、充実した蔵書を誇る図書館を利用した読書教育にも力を入れており、生徒一人当たり年間、約十八冊貸し出しているとの説明され、国際科の教室内には気楽に読めるような英語の原書も備えているとのことです。

続いてＰＴＡ活動について小形会長にお話いただきました。まず、特長的な活動として国際委員会による国際科卒業生の方の講演会があります。幅広い分野で活躍する先輩のお話はとても参考になるそうです。また、補導委員会による校外補導として通学中の生徒に声をかける活動も年二回行っているそうです。実は、私も参加したことがあるのですが、元気に挨拶する生徒さんとのふれあいは大変気持ちのいいものでした。さらに学校祭ではバザーを開き収益を生徒会活動の補助に充てているとのことです。そして今年度から新たにスクールバス委員会を立ち上げ、これまで丹南地区六校で共同運行していた冬季スクールバスを同校単独で維持していくことになったそうです。昨年より路線を増やしての運行とのこと、是非とも成功させていただきたいものです。後日同校長谷川副会長からもスクールバスについてお伺いしたところ、「交通の便が悪いからと受験生が東高校を選択肢からはずすのはもったいない。そのようなことがないようこの事業を継続していきたい」と、意気込みを語っておられました。

最後に前田顧問から、通学路の街灯設置について話がありました。同校周辺には街灯が少なく、帰宅する生徒の安全性に支障をきたしていたそうで、街灯の設置の要望を関係各方面に働きかけたのですがうまくいかず、結局ＰＴＡで設置をしたとのことでした。その行動力・英断に感動いたしました。

生徒の進路決定の補助、学習環境の改善、安全確保など、どの活動も生徒の益に直結するすばらしいもので、まさにＰＴＡが担うべき事業を行っているものと感じました。

（取材　武生高校ＰＴＡ会長　岩堀嘉郎）

県教育長との懇談会

十一月十三日（金）県庁六階大会議室にて、県教委からは森近教育長以下六名、当連合会からは加藤会長以下十六名の役員・単Ｐ会長が参加して、懇談会が開催されました。

懇談の内容は、次のとおりです。

①県立高校再編整備の今後の進め方について
②高校生の学力の現状と向上への取り組みについて
③選挙権年齢の十八歳以上への引き下げに伴う取り組みについて
④高校生の就職状況と県の取り組みについて
⑤三年後の国体に向けた競技力の向上と高校生の関わりについて

紙面の都合により①・②・④について、簡単に紹介したいと思います。

①については、「福井県高等学校教育問題協議会（高問協）」の答申を受けて平成二十一年三月に策定した再編整備計画に基づき、奥越、若狭、坂井地区で実施計画を策定し、進めてきた。二十六年度に開校した坂井高校は、工業実習棟「テクノラボ」三棟の整備、耐震工事やグランド拡張工事を進めており、来年度は八クラス三学年が揃う大規模な総合産業高校となり、再編整備は終了する。残る丹南、二州、福井地区についても、地元関係者、ＰＴＡ関係者からもご意見をいただきながら丁寧に進めていきたい。

今年四月に開校した高志中学校では、通常の中学校に比べ三年間で三百五十時間多い授業の実施、数学・理科は高校の学習内容の一部取入れ、福井の歴史、資源、風土に関する課題研究を行うなど「ふるさと福井」学習の重視、学校設定科目「英語表現基礎」では外国人教師単独による授業の実施など、グローバルな視野に立った人材育成を進めているとのことでした。

②については、五教科受験の割合が県により大きな差があるので、単純には比較できないが、大学入試センター試験で見ると、国語、英語のリスニングは全国一、二位、英語の筆記試験は五位から七位あたり、数学、五教科総合で二十位前後である。国公立への希望が多いのが本県の特徴であり、平成二十六年で二〇・四％が国公立大学へ進学した。これは全国四位である。

県では大学ごとの入試問題の分析を行い、指導マニュアルの作成、高校生が高い志を持てるように、卒業生と語り合う場の支援や大学の先生を招いての発展的授業の支援、実際の受験会場でのセンタープレテストの実施などに取り組んでいる。普通科系高校では授業力向上チームを設置し、課題解決型授業をはじめとした授業改善等に取り組んでいる。高等学校教育研究会や教育研究所、県教育委員会が連携して、これらの研究に対する支援を行っているとのことでした。

④については、十月三十一日現在の就職内定率は八五・二％で、昨年同期（八三・七％）を上回っている。

就職希望者の意欲向上や地元企業に就職して活躍してもらいたいという意を込めて、今年度新たにフューチャーマイスター制度を創設した。この制度は二つの中身があり、一つは難関資格の受験料の補助、もう一つは高校時代の頑張りを得点化して、金・銀・銅という三段階で表彰、認定していくものである。企業の面接でも使えるよう、企業に向けてこの制度を発信しているところである。

離職を減らすための対策として、三年生の夏休みに応募前職場見学の実施、就職内定者を対象に、ブロック単位でのビジネススキルアップのためのセミナーの実施、卒業して一年以内の生徒たちの就職先への教員の訪問などに取り組んでいるとのことでした。

INFORMATION インフォメーション

高校生オーストラリア研修七名が参加

今年で十四回目となった当連合会主催の「福井県高校生オーストラリア生活体験研修」は、県内四校からの七名と石川県からの七名、合計十四名が参加して、八月二日（日）から十七日（月）までの十六日間、クイーンズランド州ブリスベン郊外で実施されました。ホームステイをしながら地元の高校に通い、午前は英語レッスン、午後は現地生徒と様々な文化交流を行いました。日本とは違う文化や生活習慣に直接触れ、多くのことを学び、体験したものと思います。また、現地大学でのキャンパスツアーや市内観光、ホストファミリーを招いてのさよならパーティーなどは生涯の思い出となったのではと思います。

十月末にその「報告書」が完成し、高Ｐ連加盟のすべての高校へ送付いたしました。参加した生徒の率直な思い出が語られているものと思います。興味・関心のある方は是非学校の方へお尋ねください。

高校生総合保障制度

～事故受付状況と保険金請求手続きについて～

二〇一五年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続についてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇一五年九月までの事故受付状況ですが、事故件数は四六三件お支払いいたしました。件数の内訳ですが、後遺障害保険金といった重大な事故での保険金請求はございませんでした。事故の内容で、最も多いのは、スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度ではご自身のケガ以外に第三者への賠償事故も対象となっておりますが、今年度は二十二件報告されお支払いしております。自転車に乗っていて歩行者や他の自転車と接触しケガをさせてしまうケースや、誤って友人の持ち物を壊してしまったり、場合によっては人に誤ってケガを負わせてしまうケースさえあります。

最後に、ケガだけでなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃいますが昨年度は十五件のお支払いがございました。疾病の内訳は熱中症やヘルニア、急性胃腸炎などで入院され、ご請求をいただいております。昨今の医療費の増加傾向についてはご存知の通りです。今後は病気も含めた補償もお子さまの為にご検討頂ければよりご安心かと存じます。

二、保険金の請求方法について

〈ケガ・病気・賠償事故の場合〉

下記連絡先（**0120-300-399**（通話料無料）：二四時間受付）まで、お手元に加入者証をご用意の上、ご連絡ください。

必要書類等につきましてご案内いたします。

○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合補償制度事務局
株式会社アイル保険センター
〒910-0003
福井県福井市松本4丁目6番15号
TEL：0776-23-3419
（受付時間：9時～17時　土、日、祝日、年末年始除く）

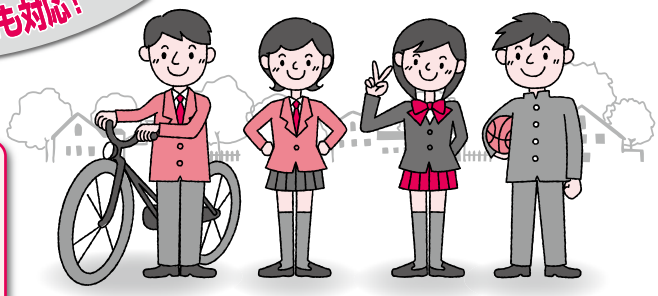
平成27年度版

福井県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度 ご案内

［こども総合保険＋自転車総合保険］

部活動によるケガや自転車事故によるケガ・個人賠償責任にも対応！



2015年12月現在の内容です。

本制度の特徴

大切なお子さまを補償期間（保険期間）中、学校が休みの日でも 1日24時間補償します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

自転車事故等による損害賠償責任も 最高1億円まで補償

男子小学生が夜間、帰宅途中に自転車で走行中、歩行中の女性と正面衝突。女性が頭蓋骨骨折で意識不明 約9,520万円の賠償命令（神戸地裁判決）

簡単支払特急便 スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院で5万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで保険金をお支払いします。

ハロー健康相談24

医師や経験豊かな看護師、臨床心理士などが、健康・医療・ストレスに関して電話でアドバイスします。医療機関に関する情報も提供します。

受付時間　24時間年中無休

- ◆夜間・休日の医療機関案内
- ◆真夜中の急病
- ◆ケガの応急手当
- ◆薬の不安・疑問
- ◆食欲不振
- ◆人に話しにくい病気

団体割引 15％適用

地震・噴火・津波補償

地震・噴火・津波による事故でケガなどをされた場合に補償します。

※プランによって補償項目が異なります。詳細はパンフレットをご確認ください。

育英費用充実プランのご案内

お子さまの将来のために **育英費用充実プラン**

※育英費用充実プランとは、基本プランの育英費用一時金100万円に400万円を上乗せするプランです。

引受保険会社：AIU損害保険株式会社

A-000598 2017-12